

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集	015
環境方針	環境に対する認識	グローバル環境マネジメントのガバナンス	戦略的アプローチ	ニッサン・グリーンプログラム	バリューチェーンでの活動実績	第三者保証

環境に対する認識

昨今、環境や社会にかかわる課題は深刻さを増し、社会は貧困や飢餓、エネルギー問題、気候変動、天然資源の確保や、情報セキュリティ、平和を脅かす紛争問題などの課題に直面しており、これらの課題はWEF (World Economic Forum) でも取り上げられています。

こうした諸課題の解決を目指し、日産は、安全で安心かつ持続可能なモビリティをすべての人にもたらし、社会に価値を提供することがより一層重要になっていると認識しています。その中でも気候変動問題は、毎年世界中で頻発している大規模な自然災害の要因と捉えられており、これまで以上にその影響を抑える必要性が高まっています。2021年から2023年で発表されたIPCC (気候変動に関する政府間パネル) の第6次評価報告書では、人為的な温室効果ガスの排出が、地球温暖化を引き起こしたことに疑いの余地はないとし、世界全体の平均気温の上昇を1.5℃に抑えるためには、もはや一刻の猶予もなく対策の強化が必要であることが、改めて強調されました。

2023年12月に開催された国連気候変動枠組条約第28回締約国会議 (COP28) では、気候問題と生物多様性問題の解決を目指す世界目標達成のために、2030年までに自然の喪失を食い止め、状況を逆転させ、化石燃料の迅速な段階的廃止を進めるための、具体的な行動提案を含む野心的な目標を設定することが提示されました。また、COP29では国際的に協力して削減や吸収・除去対策を実施するパリ協定第6条の完全運用化が合意されました。

また2022年12月に開催された第15回生物多様性条約締

約国会議 (COP15) においては、生物多様性保全に向けた国際的な目標を定めた昆明・モントリオール生物多様性枠組が採択され、COP16ではその実施をモニタリングする枠組みが議論されました。

自動車産業は、クルマの製造にあたり、鉄やアルミニウムをはじめとする多くの資源を使用しています。また、近年の電動化により、リチウムやニッケルなどの偏在する貴重な資源の利用も拡大しつつあり、バリューチェーン全体において地球環境に依存するとともに、影響を与えています。日産は気候変動やエネルギー問題への対応、大気の質をはじめとする自然資本の保全、鉱物資源の効率的な活用、化学物質管理、資源枯渇への対応といった持続可能性に関する取り組みを行うとともに、化石燃料依存からの脱却に向けたビジネス構造の変革を推進することが重要と認識しています。